

こんなことをします！（活動計画）

- ひまわり運営委員会 12月1日（月）
月1回の開催でひまわりの子ども支援活動の具体的な計画を協議・実行します。
- 保護者とボランティアの子ども理解研修 12月13日（土）
全ボランティアと全保護者を対象に月1回開催され、子どもの個性や特性の理解と支援の方法などを話し合い、情報の共有を図ります。
- ヨガ教室 12月15日（月）
ひまわりの専門部会が主体となって、近くの施設で月に1度ヨガ教室を開きます。ボランティアや保護者、子どもたちが参加しています（部外者の方も参加可能）。
- 鶏と陸ガメのフェスティバル 12月17日（水）
月1回、鶏と陸ガメを畑に開放します。鶏と陸ガメにとっては心待ちにしている日です。



- ひまわりクリスマス会&ふれあいレストラン 12月20日（土）
ゲーム大会、ビンゴ大会、みんなで用意したクリスマスプレゼントの交換など、昨年開催し子どもたちに好評だった内容で、今年もクリスマス会を盛り上げます。
ランチはふれあいレストランでクリスマスを彩るメニューで振る舞います。カレー、チキン料理、カップケーキなど子どもたちに人気のメニューを予定しています。



昨年のクリスマス会の様子

ボランティアの先生を紹介します

VOL
33

土本章子先生

土本先生は、元小学校の教師を経験した先生です。現在は学習中心の「オルタナティブスクールひまわり」で小学生と中学生を対象に学習支援を担当しております。子ども一人ひとりへの木目の細かな丁寧な支援が際立ちます。子どもの疑問や悩みにも一緒に真剣に考えて指導する姿は多くの子ども達から尊敬されております。

先生は、ひまわりを離れても絵画、書道や憲法の模写など多彩な趣味でアクティブに活動しておられます。

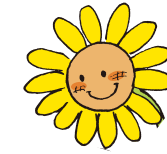
土本先生のひまわりでの更なるご活躍を周囲は期待しております。
70才代女性 東京都出身横浜市緑区在住

ひまわりの 現況

- 通学制 開校日：月・水・金・土 / 10時～14時30分
- オルタナティブ 開校日：火・木・土 / 10時～14時30分
- 通信制 オンラインを通してゲームから学習支援までひまわり目線の支援を行います。支援時間と内容は、本人と相談の上で行います。
- 現況 生徒数：（約）60名 / ボランティア：（約）20名
- 内容 時程：10時開門（学習）、12時10分昼食（食後レク）、12時55分（校長タイム）、1時20分（フィールドタイム）、2時半（帰りの会）（下校）

みどりの学校ひまわり／〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台 80 問い合わせ先 090-9201-3992（渡辺）

ボランティアスクール
「横浜みどりの学校ひまわり」



ふれあい

学校だより 2025年12月号 No.74

こんな学校があってもいいかも
（既存の教育にとらわれない学校）

ひまわりは、さつきが丘小学校の元校長が開設した全員が手弁当のボランティアスクール（私塾）です。「公立学校で苦戦する子どもたちを公立学校ではできない手法で支援する」「地域の子どもは地域で育てる」「金のかからない教育」などを掲げて、14年前に開設されました。

教育実践の回顧から 「肩越しの視線」と「3センチの隙間」

校長 渡辺 正彦

私は35年の小学校教師生活の中で多くのことを学びました。しかし、その多くは教科の研究や指導方法ではありません。むしろ研究会や会議は苦手な方でいつも理由をつけて出席を避けておりました。ですから最新の教育界の動向や指導方法には疎いものでした。

それは、校長になっても同じで、半ば義務づけられていた月に一度の校長会への出席も滞りがちでした。「校長会に出席する暇があるのなら自校の子どもや職員に寄り添う」と言うのが私のポリシーでした。これを「現場主義」と言えば聞こえが良いのですが、ADHD（注意欠陥・多動性障がい）傾向の個性に由来するものであると自認しております。

加えて商人の家庭で育ち、電気メーカーの営業職の経験からか人の心を読み取るのが多少得意なようにも感じます。俗に言う「顔色を伺う」ことや「忖度」に通じるものです。

教育委員会の研究会を好まず、他人の顔色や心を読み取るのが得意なこの個性が教育現場で役に立った2例を回顧したいと思います。

その1、「肩越しの視線」

20代の頃の私が休み時間になり教室で事務処理をしていると教卓の回りを多くの子ども達を取り囲みました。「先生、日曜日どこに行ったの」「歌手の〇〇くん可愛いね」などのたわいのない会話の子ども達の笑顔に対応する中で私の視線は、子ども達の肩越しの隙間から机に座り楽しいはずの休み時間に子どもと先生の輪に入れない子どもにありました。

我々教師は、えてして積極的な子どもやアクションの大きな子どもにより多く対応しがちですが、その影に同じ思いを持ちながらも行動に表せられない子どもが居ることを忘れてはいけないと思います。

その2、「3センチの隙間」

給食の時間、個別支援学級（特別支援学級）の子ども達は、「交流給食」と称して一般学級に出向いて給食を食べます。ある日、校長の私が給食指導を巡視していると、高学年のクラスで班（グループ）にして給食を食べている女子の机が隣の児童と約3センチの隙間があるのを発見しました。担任にそれを指摘すると、担任は慌てて机を直しました。はたして、担任は物理的隙間を直したのですが、心の隙間には気づきませんでした。

それは、受入れ側の一般学級の女子児童が個別支援学級の女子児童の受入れを拒んでいるサインに他なりません。自分の心は個別支援学級の女子児童との給食を受入れられないが、学校のきまりなので交流給食は拒否できなく、そのための妥協の方策なのです。このような行為や雰囲気は、担任には理解できなくとも個別支援学級の女子児童には敏感に伝わっていたはずです。

最新の教育指導の研究も大切ですが、もっと大切なことは、子ども達の「状況や心をしっかりと読むこと」ではないでしょうか。

「横浜みどりの学校ひまわり」においてもそんな視点を大切にして子ども達を支援したいと思います。

こんなことしました! (活動報告)

社会科見学

サンシャイン水族館 & プラネタリウム満天

10月17日(金)、社会科見学でサンシャイン水族館とプラネタリウム満天へ総勢25人で行きました。

この社会科見学は、「JA横浜 子どもの未来支援助成」でいただいた助成金を活用しました。

当日子どもたちは、プラネタリウムを鑑賞し、水族館では、ペンギンや海の生き物を目を見張る楽しいひとときを過ごしていました。昼食を食べた後、帰路につきました。



学校で悩んでいる子どもを応援します

人間関係が苦手、学校が合わない、不登校気味、学力不振、学習に集中できないなどの子どもたちを積極的に支援します。支援者は現役教師、塾指導者、臨床心理士など様々です。それぞれの専門分野から子どもに合った支援をします。活動費として月1000円から3000円で運営しています。体験期間の2週間は無料です。

お問い合わせは



090-9201-3992

渡辺まで



本校の事業は、赤い羽根共同募金を財源とした青葉区社会福祉協議会の「あおばふれあい助成金」の配分を受けて活動しています。

福祉まつり

11月24日(月) 青葉台大成祭典駐車場にて行われた青葉台地区社会福祉協議会主催の「福祉まつり」に今年もバザー出店を行い、まつりを盛り上げました。

お手頃な値段に次々と商品が売れていき大盛況でした。子どもたちも一致協力し、工夫を凝らしたクレーンゲームを自主的に運営し売り上げに大いに貢献しました。



運動会準備

11月29日(土)にひまわりミニ運動会を開催するため、ボランティアや保護者を中心に準備を進めています。

子ども達もスローガンやポスター作成などみんなで協力をしながら当日を楽しみに準備をしています。



創設3か月目のオルタナティブスクールひまわり

「横浜みどりの学校ひまわり」には、創設15年目を迎える居場所中心の「フリースクールひまわり」と創設3ヶ月の学習特化型の「オルタナティブスクールひまわり」の2つのスクールが併設されています。創設3ヶ月の「オルタナティブスクールひまわり」は、現在9名の小中学生が在籍し週3日の活動日には子ども達は驚くような集中力で学習に励んでおります。学習内容は、英語の他に国語、算数(数学)の基礎学力の定着を目標にしており、漢字検定、算数検定、英語検定など子ども達が取組み易いものになっております。また、自己の興味のあるものを調べる「研究学習」やボランティア活動など多彩な学習方法を試みております。子ども達の雰囲気も良好です。講師の先生も大学の名誉教授や中学校教師、小学校教師など経験豊富な人材です。今後は、最大15名程度の規模で運営をしていく予定です。

ボランティアを募集しています

フリースクールひまわり

月・水・金・土曜日

午前10時から午後2時30分
(週1回・午前・午後のみ可能)

- 子どもの見守り ●学習指導・支援
- 支援金事務 ●農作業 ●にわとりの世話
- 保護者や子どものカウンセリング その他

オルタナティブスクールひまわり

火・木・土曜日

午前10時から午後2時30分
(週1回・午前・午後のみ可能)

- 子どもの見守り
- 学習指導・支援

お問い合わせ

090-9201-3992
(渡辺)

ホームページはこちら



ひまわりは、公益財団法人 公益推進協会こどもオポチュニティーズクラブ基金の助成を受けて運営されています。